

## 1 目的

本校の入学者は、非農家出身の割合が増加する中、経営基盤の整っていない学生の間では、専門的な知識・技術を生かせる場としての農業法人への雇用就農に対する関心が高まっている。

そこで、就農・就業相談会等への参加を通じ、農業法人の理解促進を図り、非農家出身の学生を主とした雇用就農への意欲喚起及び就農促進を図る。また、先進的な農業経営を行っている農家や農業法人の取り組みについて、経営者の講話や現地視察を通じて、理解促進を図り、就農対策の一助とする。

## 1 実施状況

### (1) かごしま就農・就業相談会での相談活動

1年生だけでなく、まだ進路が決定していない2年生も参加することができて良かった。

1年生にとっては、早期に就農意欲の向上が図られるとともに、進路選択のための情報収集をする貴重な場となった。

### (2) 先進農家等による講話

#### ア 木場俊行氏(農学部対象)

昭和45年に就農し、昭和59年よりイチゴの観光農園に行っていると同時に、水稻の作業受託も行っている。

また、指導農業士として、地域の新規就農者や農業大学校の農家留学研修の受入も行っている。

講演では、経営の変遷や安心・安全な農産物生産、6次産業化への取り組み等について経験を踏まえた内容で、失敗談やそれを糧として改善していった事例、人とのつながりの大切さなど就農予定者だけでなく、就職予定の学生へも有意義な講話となった。



木場氏の講演

#### イ 宮瀬一弥氏(畜産学部対象)

平成17年度に鹿児島県立農業大学校畜産学部(肉用牛)を卒業後、県内の農業法人で1年間の研修を経て就農。現在、生産牛100頭を飼養管理する青年農業者として、地域農業の発展に貢献している。また、若手リーダーとして県内外で活躍している。

研修後自営を始めてからの苦労話や、経験から得た教訓を話され、学生の今後の就農意欲を醸成するために大変参考になった。



宮瀬氏の講演

### (3) 先進地等の視察研修

肉用牛の改良増殖の期間である種雄牛造成には、かなりの期間と費用を要することや、貴重な種雄牛の存在は、和牛産地としての鹿児島の産業振興の浮沈に関することが理解できた。

研究においても遺伝子解析など、かなり高度になってきていることも理解できた。



## 3 今後の課題、取り組み

今後も引き続き、本県の農業を担う人材の育成・確保を図るために、本事業を活用し、就農促進のための取り組みの充実・強化を図る。